総合心療センター　デイケアパティオ

室長　川渕　忠義

はじめに

令和 4 年（2022 年）はコロナ禍の下、徹底した感染防護と安全管理に注力しながらスタッフ、利用者ともにストレスフルな一年であった。昨年の運営に比べると、自粛や制限といった閉塞感は幾分改善され、治療環境についてもコロナ禍前の状況に戻しつつあるなか、提供する治療の質を維持することに努めた。また経営的には利用者数の減少が続いており、厳しい状況と言わざるを得ない。このような状況ではあるが、利用者の協力があってこその運営が可能となっている現実に日々感謝し、丁寧なかかわり、治療、支援をおこなうことを心掛けた一年であった。

運営状況

運営体制は、3 月末にて作業療法士 1 名、看護師 1 名の 2 名退職。4 月より管理者である作業療法士 1 名、公認心理師 1 名、4 月に異動となった看護師 1 名の計 3 名となり、これまで 4 名体制であったが、1 名減でのスタートとなった。異動してきたスタッフについては病棟での精神科臨床自体の経験年数が 5 年未満というフレッシュさもあり、残った 2 名のスタッフを軸に実践をおこなった。昨年に引き続き、新型コロナウィルス感染症の感染対策として利用者の健康観察、行動チェック（県外等外出自粛、外食自粛）、その他生活全般における感染対策の厳守を掲げ、利用者、スタッフが一丸となってリワークプログラムが実施できる治療環境を守ることに重点をおいた運営となった。昨年より少ないスタッフ数であったが、なんとか治療の質を維持することを努めた結果、下半期には徐々にではあるが、入所者数は増え始め、やりがいやモチベーションＵＰを実感できた一年であった。

実績

活動実績としては（グラフ 1、2）に示すように、年間入所者数 32 名、年間退所者数 32 名であった。入所者数は昨年よりも若干増えつつあり、次年度は入所者数の増加に向け、コロナ禍前の運営に近づけていけるよう努力したい。また一日平均通所者数については、昨年とほぼ変わりなく、利用者の安定した通所に向け、丁寧なかかわりと支援を実践していきたい。

次に入所した利用者の紹介元（グラフ 3）については、他院・クリニックからの紹介がもっとも多く 7 割を超えている。今後も他院、クリニックの期待に沿えるよう連携強化を図り、実践を通しながら信頼のおける施設を目指し取り組んでいきたい。一方、当院外来からの紹介については 3 割にとどまっており、入院に至ってはほぼ 0 に近い状況である。今後、当院のかかりつけ患者の利用を増やすためには外来との連携強化を図り、なにより新患を増やすためにも医師の増員が求められる。

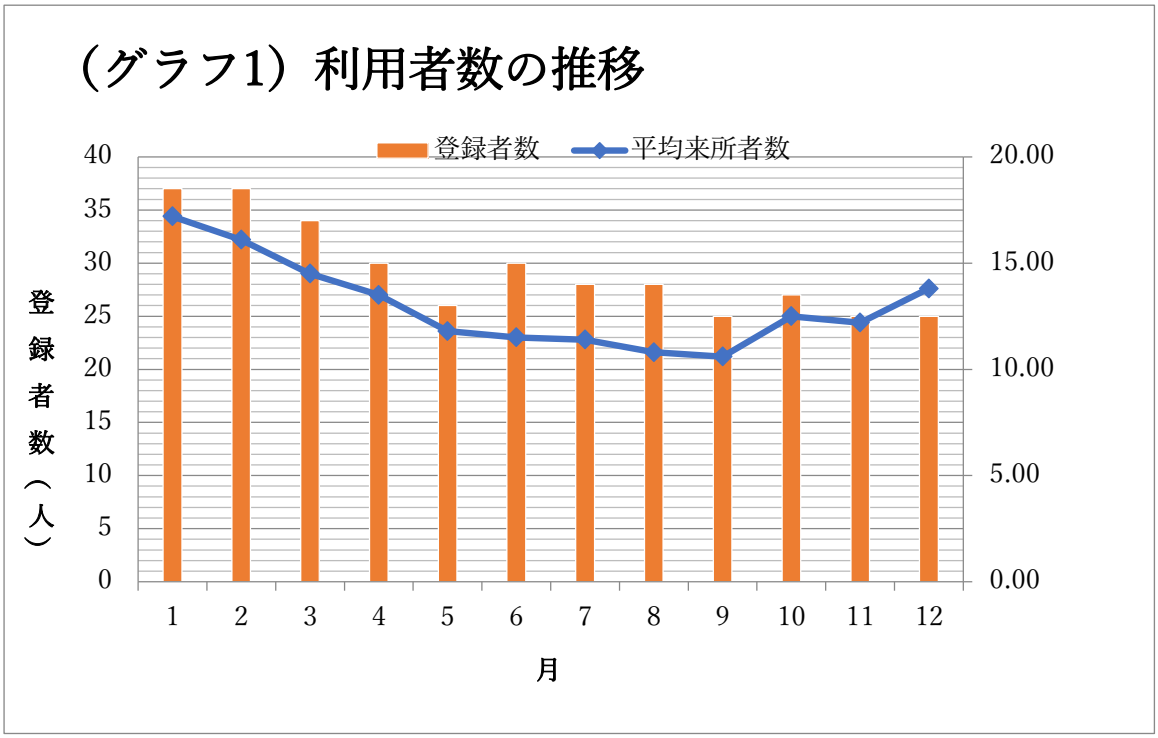
職種別（グラフ 4）については、公務員が約 7 割、会社員は 3 割近くを占め、再就職を目指す無職の方が 1 割未満という結果であった。今後も事業場との連携強化はもちろん、スムーズな職場復帰を支援していきたいと考える。再就職については、復職者と同じリハビリ環境のもと、可能な限り、早期の就労に向けて治療環境の整備、ハローワークや障害者職業センターなどの就労支援機関との連携を図っていきたい。

疾患別（グラフ 5）の内訳としては、例年とほぼ変わりはなく、軽症のうつ病群を含めたうつ病層が多く、次いでその他に分類している適応障害が 2 割程度となっている。利用者の平均年齢については 37.5 歳と若年化が進んでいる印象である。また入所から退所までの在籍期間（グラフ 6）ついては、半年から一年未満がもっとも多く、つぎは 3～6 か月未満が多い。ここ数年は利用期間の短縮化が進んでいる印象である。

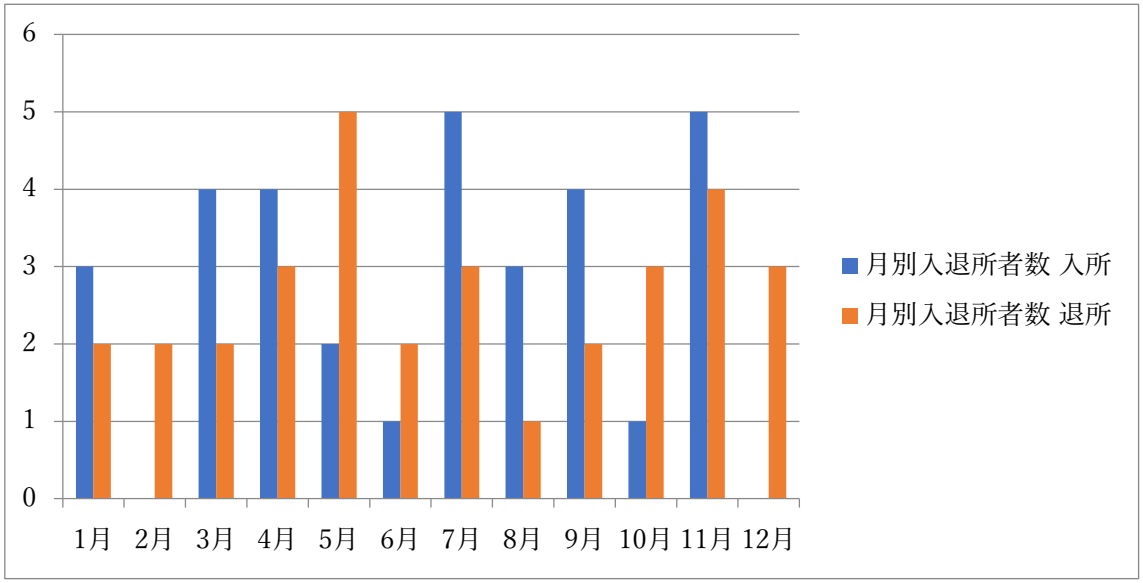
おわりに

次年度については、コロナ禍前の環境に戻すことを念頭に、運営できる体力を維持しつつ、治療の質を向上させ、利用者増へつなげていきたいと考える。利用者が早期に回復でき、活気ある生活がおくれるよう、安全・安心して治療を受けられる環境を整えていきたい。

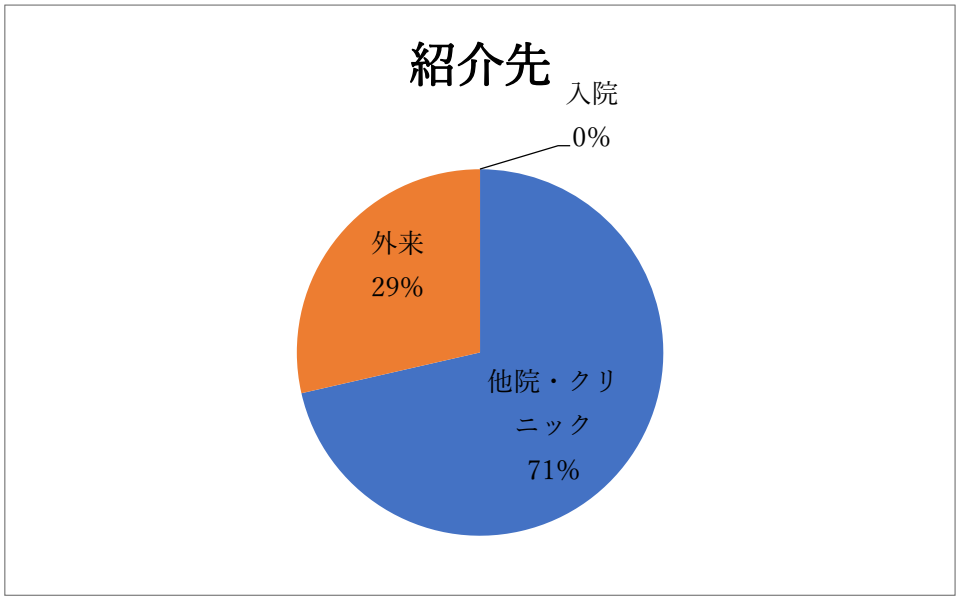
図・グラフ１　利用者の推移



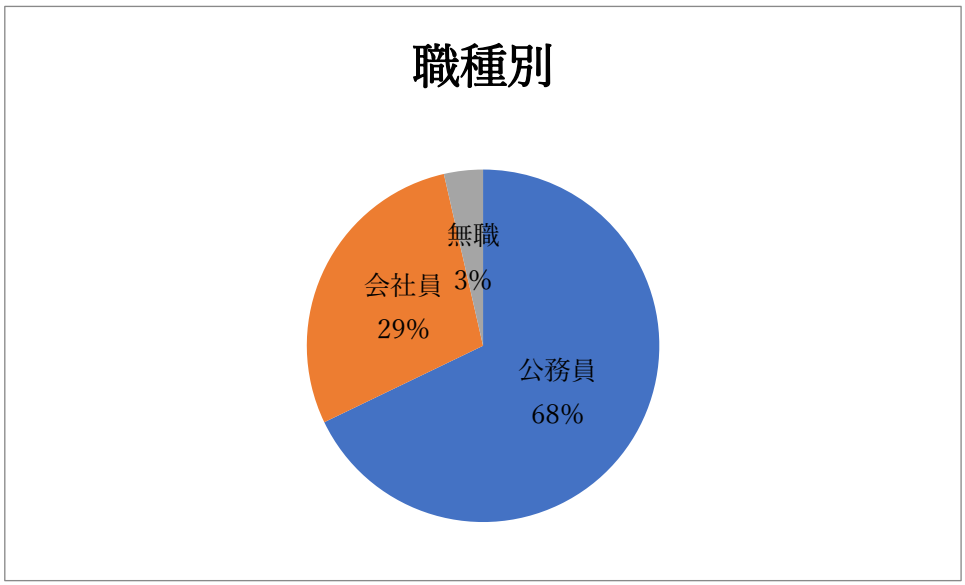
（図・グラフ２　入退所者数）



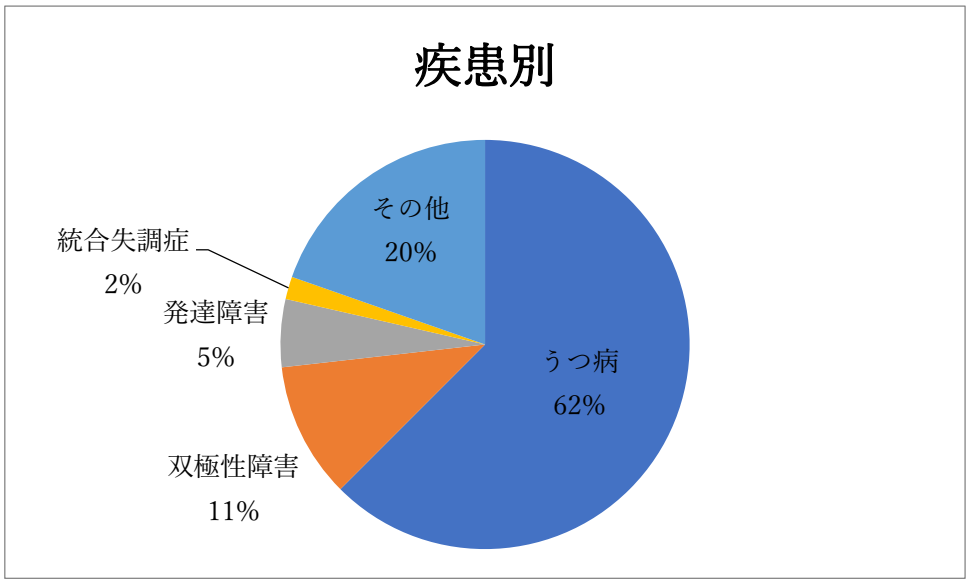
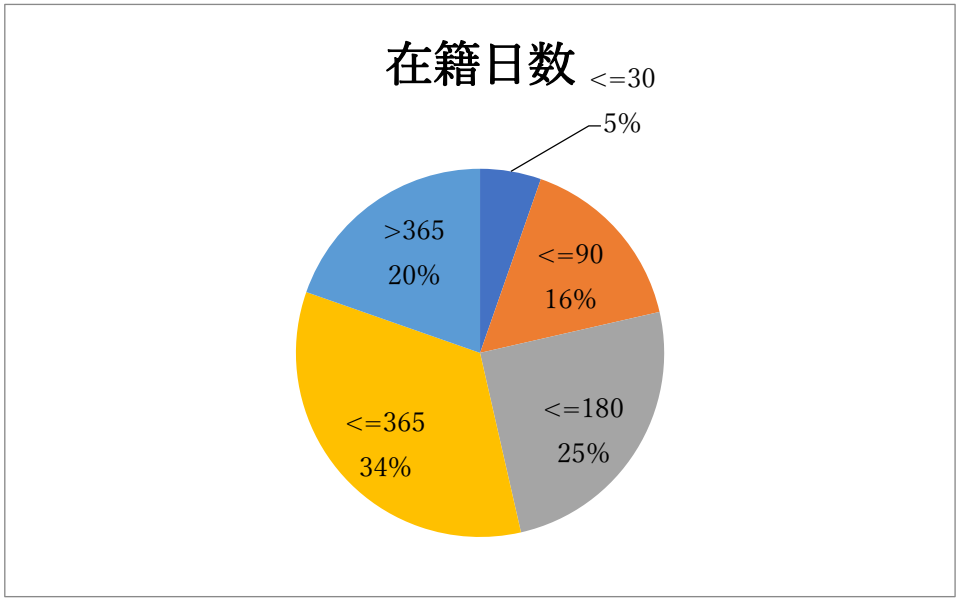
（グラフ３　紹介元）



（グラフ４　職種別）



（グラフ５　疾患別）



（グラフ６　在籍日数）